



釈尊のことば

ことばをつつしみ

意をととのえ

身に不善を作さず

この三つの形式によりて

おのれをきよむべし

かくして

大仙の説ける道を得ん

法句經 二八一

法句經に学ぶ 14

神田寺住職 友松浩志



お盆号

「雲 晴」第四十七号

令和五年七月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五-四六-一五
電話 〇三-三六二七-三四一一
FAX 〇三-五六九九-五九二五

少しコロナも落ち着いて、日常の生活が戻って帰っています。お祭りや、いろいろなイベントが復活すると、何だか心がウキウキしてきます。マスクを取って、深呼吸する気持ちの良さ、人の顔が分かる安心感を感じます。あたり前だったことが禁止されて、初めてあたり前の有り難さに気づくものです。

ここに取り上げた「法句經」も、ごくあたり前のことを言っています。正しい言葉を使い、正しい気持ちを持ち、正しい行ないをすることこそ、仏さまの説く教えに生きることであるという教えです。仏教では、これを身口意の三業を清める教えとして尊んでいます。

相手の気持ちを考えた気持ちの良い言葉は、人の心を穏やかにします。嘘のない、真っ直ぐな気持ちは、相手を安心させ、和やかな関係をつくります。そして、相手を害さない正しい行動は、何よりも幸福な社会をつくり出します。

コロナが一段落して、多くの人が集まるようになってきました。社会にも明るさ見られるようになりました。とはいえ、単にもとに戻る、以前に戻るのではなく、あたり前のことを大切にしながら、より成長した、前向きな社会をつくり出していければ、より意味あるように思います。